

シロンゴル・モンゴル語 英 Shirongol,

露 язык широнгол-монголов,

中 錫隆郭勒蒙古語 (Xílóngguōlè mēnggǔ-yǔ)

中国, 甘肅省の蘭州市以西の黄河上流域に居住するモンゴル系住民の言語をさして用いられた名称. 青海湖から黄河上流域を含むこの地域は「アムド(Amdo)」地方とよばれ, チベットの東北部を形成する. ここに居住するモンゴル系住民は, モンゴル(土)族, ドゥンシャン(東郷)族, バオアン(保安)族等, 一樣でないが, 「シロンゴル・モンゴル語」は, それらの言語と方言の総称として用いられてきた.

1955~56年に, 中国中央民族学院, 中国科学院語言研究所, 内蒙蒙文研究会等の主催によって行なわれた中国国内のモンゴル系諸言語と諸方言の言語調査の結果, それは, モンゴル語, ドゥンシャン語, バオアン語という, 3つの別個の言語とそれらの方言である

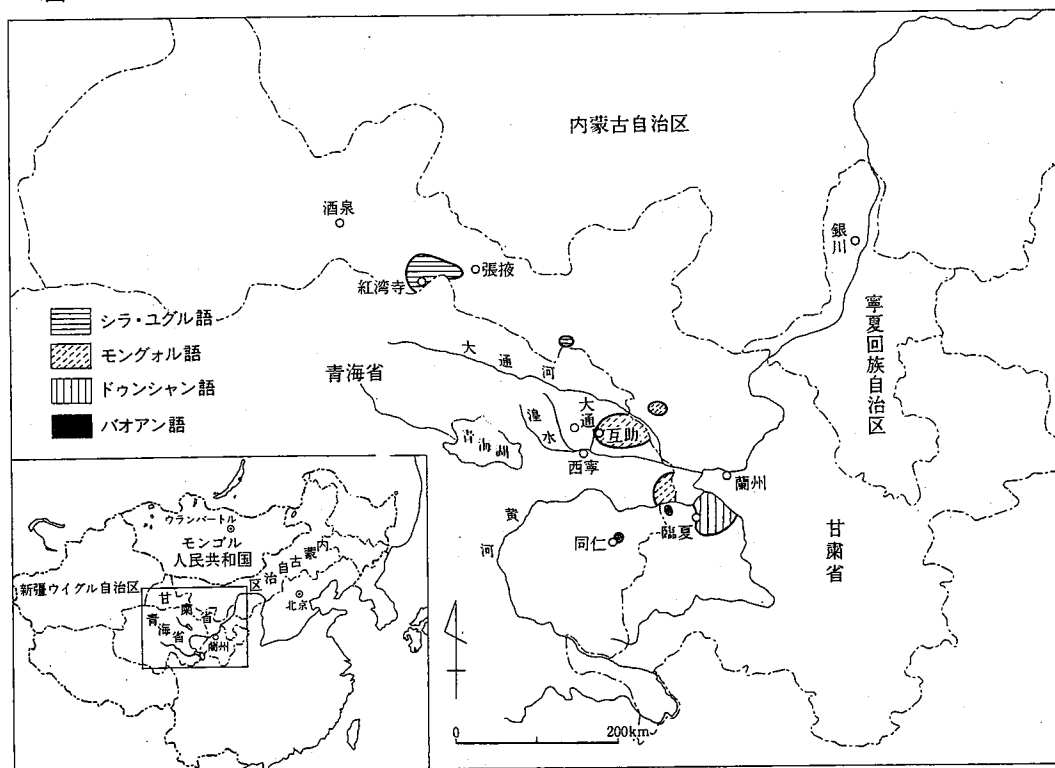
とみなされるに至った. したがって, 「シロンゴル・モンゴル語」を, モンゴル諸語中の単一の言語もしくは方言とするポッペ (N. Poppe, 1955) やデルファー (G. Doerfer, 1964) らの分類はもはや的確でない(〈図〉を参照).

「シロンゴル」の名称は, ロシアの探検家ポターニン (Г. Н. Потанин) の命名によるが, 同地方のモンゴル系住民を, ユックとガベ (Huc et Gabet) は「ジャホル(Dschiahour)」, プルジェワルスキー (Н. Пржевальский) は「ダルダ(Далды)」として紹介した. 前者は, 「シナ化したモンゴル人」の意味のチベット語 (rgya-hor) に由来し, 後者は, モンゴル高原の一部のモンゴル族がモンゴル(土)族をよぶドロト (Dolot) の訛りと考えられる.

ポターニンは, 1884~86年にかけて, 青海・アムド地方を旅行して, ウ・ヤン・ブ(威遠堡), サン・チュアン(三川), ボウ・ナン(保安), および, 「蘭州と河州(現在の臨夏市)の間の東郷地方からの移民が住んでいる」スン・ジャ・チル(宋家集?)村で, 語彙と短い表現を採録, これをモンゴル高原のモンゴル語と区別して, 「シロンゴル・モンゴル語」とよんだ. 現在, これらは, それぞれ次の言語と方言にあたる.

ウ・ヤン・ブ土語: モンゴル(土族)語, 互助方言

〈図〉 シロンゴル・モンゴル語関連諸言語の分布



出典: 『中華人民共和國民族分布略図』(1981) などによる.

サン・チュアン土語：モンゴル(土族)語, 民和方言
 ボウ・ナン土語：バオアン(保安)語, 同仁方言
 スン・ジャ・チル土語：ドゥンシャン(東郷)語

[参考文献]

- Doerfer, Gerhard (1964), "Klassifikation und Verbreitung der mongolischen Sprachen", *Handbuch der Orientalistik*, I Abt., V Band, II Abschnitt: *Mongolistik* (E. J. Brill, Leiden/Köln)
- Mostaert, Antoine (1931), "The Mongols of Kansu and Their Language", *Bulletin of the Catholic University of Peking* 8 (Peking)
- Poppe, Nicholas (1955), *Introduction to Mongolian Comparative Studies* (Mémoires de la Société Finno-Ougrienne 110, Suomalais-Ugrilainen Seura, Helsinki)
- Потанин, Г. Н. (1893), *Тангутско-тибетская окраина Китая и Центральная Монголия. Путешествие Г. Н. Потанина 1884-1886*, т. II (Санкт-Петербург)

[参 照] シラ・ユグル語, ドゥンシャン(東郷)語, バオアン(保安)語, モンゴル語, モンゴル諸語
 (栗林 均)